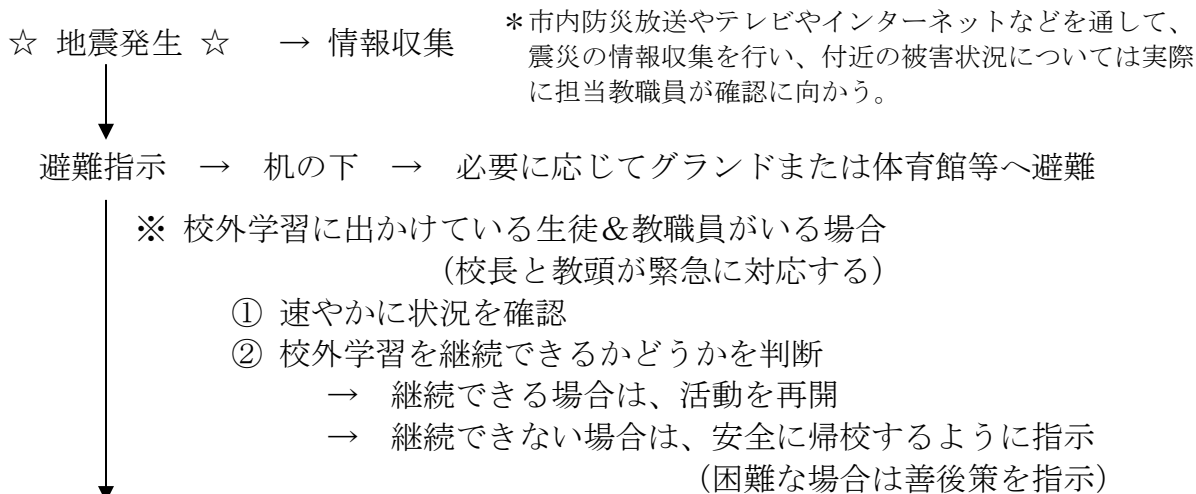


# 大規模地震が起きた場合の行動マニュアル

<行動マニュアル（生徒が学校にいる場合）> ※ 校舎の耐震強度は十分にあると考えます

〈1〉 初期対応 ※地震発生から生徒下校までを「初期対応」とし、生徒の安全確保を最優先にする。



緊急職員会議 ※緊急会議に先行して、担当教職員が校舎内外（含・体育館）の破損状況を確認する。

- ① 状況の確認（人員の確認、情報の共有）
  - ・校内の生徒の状況（けが人の有無、所在不明者の有無）
  - ・校外学習などで校内にいない生徒と教師（出張や休暇中を含む）の状況
  - ・学校周辺と校舎内外の状況
  - ・地震の情報（震源や震度）、影響（津波の襲来、交通機関の混乱など）
- ② 今後の対応を決定する
  - ア) 教室に戻って授業を再開する
  - イ) すみやかに下校する（通常下校または地区別集団下校）
  - ウ) 保護者または代理人による迎えを待つ（生徒は学校で待機）
  - エ) その他（さらに安全な場所へ避難をする、指定避難所に移動する など）

※基本方針として「大規模地震（震度5以上）の場合、保護者または代理人の迎えを原則とし、状況により教職員の引率で集団下校を行う」となっています。

※市教育委員会の「地震そのとき学校は」における大規模地震発生の場合の主な対応は以下のとおりです。

震度5弱以上	授業を打ち切り、原則として、学校に留め置き、保護者引き渡しとする。学校対策本部を設置し、今後の対応を適切に判断する。
震度4以下	授業の継続か打ち切り、下校等の判断は、状況に応じて校長が適切に判断する。学校対策本部も状況により設置し、今後の対応を適切に判断する。